

令和4年度
第2号
PTAはこだて

第135号

発行日 令和4年12月9日
編集 函館市PTA連合会広報委員会
発行者 函館市PTA連合会
会長 駒野圭史
印刷者 (有)三和印刷



①第2回会長研修会・交流会 (9月29日)



②第35回青函PTA交流会 (10月22・23日)



③第3ブロック連絡会 (10月30日)



親の学びから描かれる
こどもの未来予想図

函館市PTA連合会

会長 駒野圭史

皆様におかれましては日頃より函館市PTA連合会(以下市P連)の活動にご理解と協力を賜りまして感謝を申し上げますとともに、各単位PTA(以下単P)活動への尽力に敬意を表します。

令和四年度の活動開始から早くも半年が経ちました。二度目の会長研修会・交流会、市P連研究大会(書面開催)、そして日本PTA研究大会オホーツク北見大会(オンライン)が開催されました。日本PTA全国大会も山形で開催され、私も北海道PTA連合会の役員として参加させていただきました。

会長研修会・交流会では単P会長同士、小さなグループに分かれて対面で行われました。各校の取組を聞く事ができ、質問や意見が飛び交い、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

市P連研究大会は研修委員の方々が対面で行う準備をしまいましたが、八月末の市内の感染状況から書面開催との決断を致しました。しかし、事前にいただいた資料が大変すばらしく、提言校の発信を一人でも多くの保護者に見ていただきたいと、URLから誰でも提言と助言にアクセス可能としました。この提言と助言は現在でも閲覧可能です。

また、オホーツク北見大会の分科会では道内の単Pの提言を動画で見ることが出来ます。いずれも特色ある活動ですので、是非参考にして下さい。特に第四分科会では函館のCS(コミュニケーションスクール)のノウハウについて神田副会長より提言いただいております。年内は閲覧可能ですので是非再生回数を増やしてください。オンラインでの研修はどこでも、誰でも参

加できる手軽さがあり、全国各地の研修会にも参加できることは大きなメリットです。その反面、対話とはならず、深い関係を築けないデメリットがあります。使用する我々は適宜、用途に合わせて選択する必要があります。

全国の山形大会では人と人との繋がりをテーマにしましたが、その繋がりをICTで進めていくという内容でした。函館市でもICT教育が進み一人一台の端末の支給、教室への六五インチ大型モニターの設置が完了しています。ICTの導入でこども達は日々進化しています。ですから、我々おとなもオンラインに挑戦しましょう。どこに新しい扉があるかわかりませんので色々試してみてください。進むべき道や、同じ道を進む同志に巡り合える事でしょう。

この様に世の中が一步また一步と進んでおります。もちろんこどもたちの歩みも止まらず成長を続けます。そして市P連の務めは『こどもたちの未来を考える単Pの想いを吸い上げ、実現するための手伝いをする』事です。

私一人では何もできません。ですから、私の想いの第一歩として、『各単Pの会長さんと意見交流を密にして、出来ることを一歩ずつ進んでいきたい。そして会員の皆さんに還元したい。』という思いがありますのでご期待いただきたく存じます。

結びになりますが、成長するのはこどもだけではありません。是非おとなも成長を続け、その先を思い描くことで未来予想図が完成するはずです。こどもと共に、函館市P連一致団結し、学びを進めましょう!!